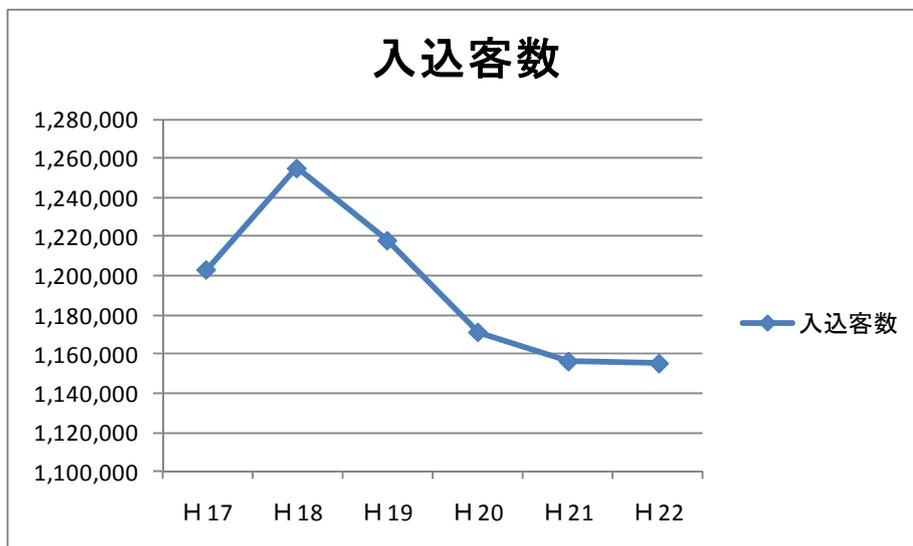


# 平成22年 観光動態調査（1月～12月）

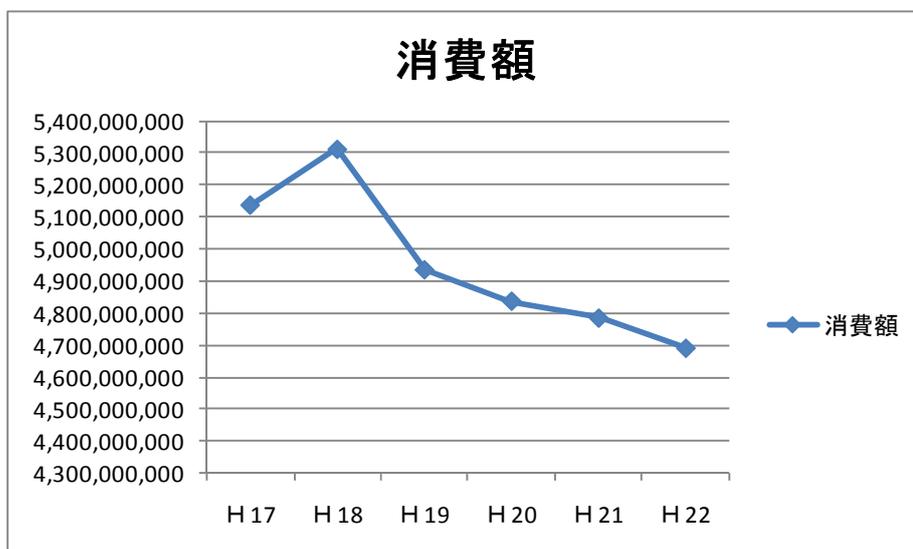
柳川市観光課

## 1. 全体の傾向

平成22年（1月～12月）の柳川市への観光客の入込客数は、115万9千人で、前年と比較すると約3千人の増加となっている。しかし、福岡県内での入込客数の状況を見ると本市は20番目に位置しており、県内でも有数の観光地と言われているが入込客の数字だけを見るとまだまだ少ない状況である。



推計消費額を見ても約4.7億円と前年と比較すると約5千万の減少となっている。1人当たりの消費額は約4,070円となり、前年よりも若干少ない状況にある。



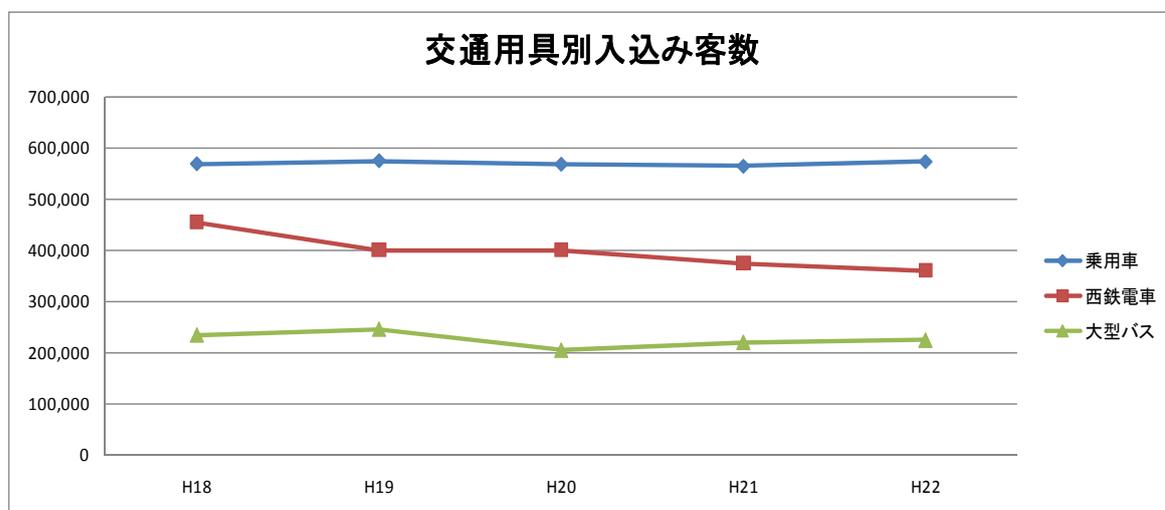
入込客数を月別にみると、気候が良い春先の2月から4月がピークであり、寒い時期の1月、12月の冬場が極端に少ない状況である。これは、柳川観光の柱の一つである川下りの影響が大きいと考えられる。

平成22年の柳川の観光を要約すると、観光客数はほぼ横ばいで推移しているものの、宿泊客数が依然として減少傾向にあり、約96%が日帰り観光客であるものの、年間約100万人を超える観光客が持つ経済効果は期待ができ、総合産業としても必要なものである。

今後は、柳川市民の受け入れでお客様の満足度を高め、一人でも多く柳川のファンになっていただき、何度も足を運んでいただけるような観光まちづくりを展開していく必要がある。

## 2. 個別の交通機関

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の約半数を占め、西鉄電車利用者で約31%、大型バス利用者約19%となっている。

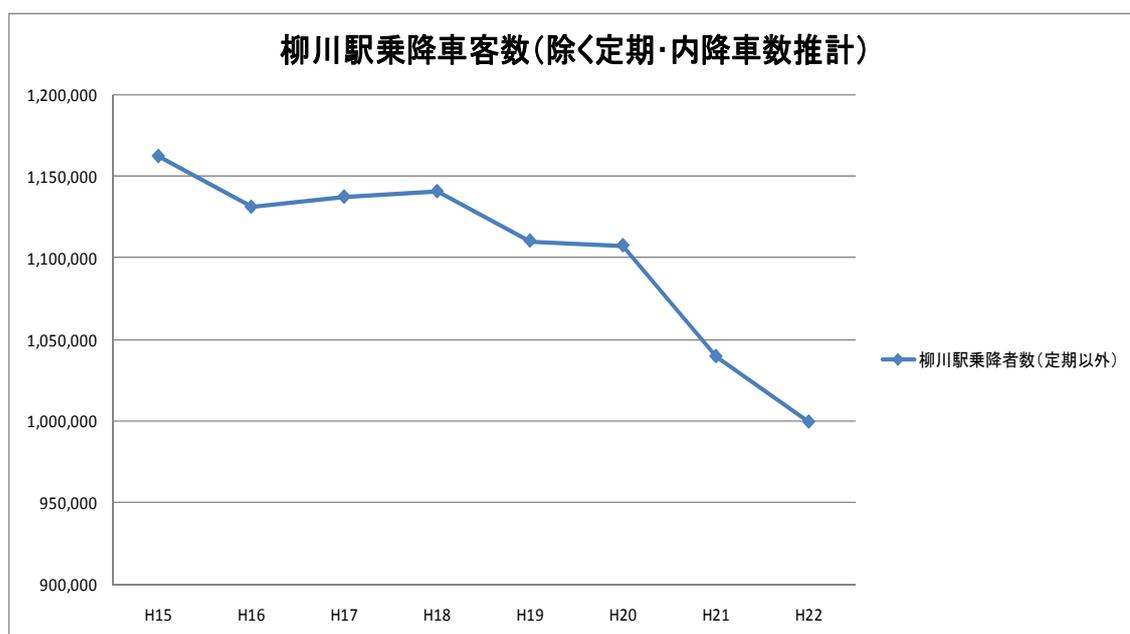


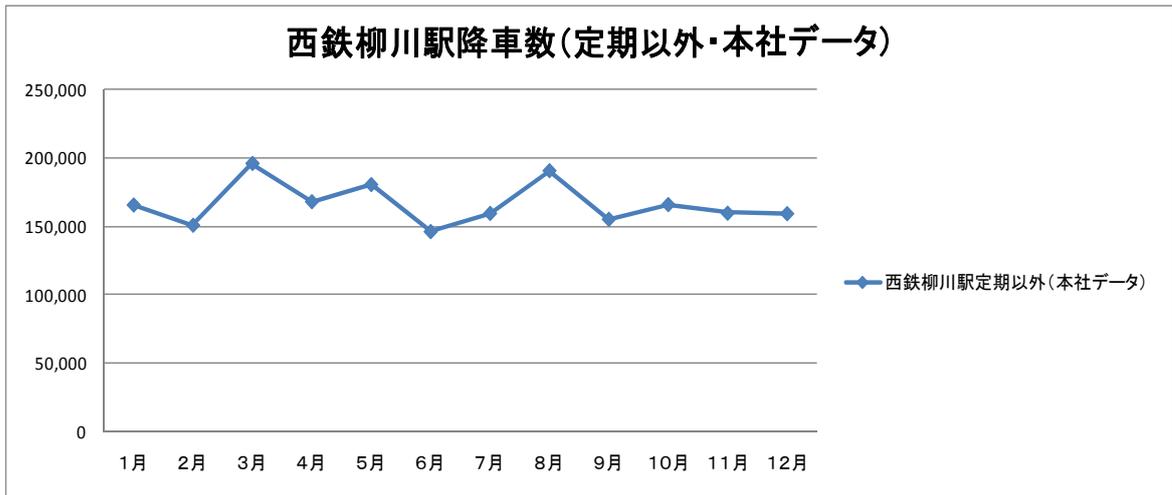
この数字をみると、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めているといえる。また、大型バスに関しても利用者による聞き取りによると、団体旅行というよりも小グループや家族でバスツアーに申し込みをして訪れる観光客が増えている状況である。

### (1) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約199万8千人であり、昨年比約8万人の減少となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、36万人と推計され、全体の観光客数の内、約31%と推計される。平成17年以降、西鉄利用者は年々減少傾向である。

西鉄利用の観光客36万人の内、西鉄が販売している柳川特盛きっぷや湯ったり柳川きっぷといった企画きっぷを利用して訪問される観光客が多いと考えられる。





## (2) 大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、約5千5百台の駐車があり、昨年比約150台増加している。これは、団体旅行が増えたということではなく、柳川が行程に入っているバスツアーの商品が増えたと考えられる。最近は「安・近・短」といった言葉があるように、安く近い場所に短期間で旅行する観光客が増えてきており、バスツアー商品が人気になっている。それもあり、柳川には、川下りとうなぎのせいり蒸しといったセット商品や雛祭りや大藤祭りといったイベントなどツアーを造成しやすいものがあることで増加したと考えられる。

大型バスを利用する入込み客数は、22万3千人と推計され、昨年比、約4千人の観光客が増加したと推計される。ここ数年をみても、若干であるが増加傾向にある。

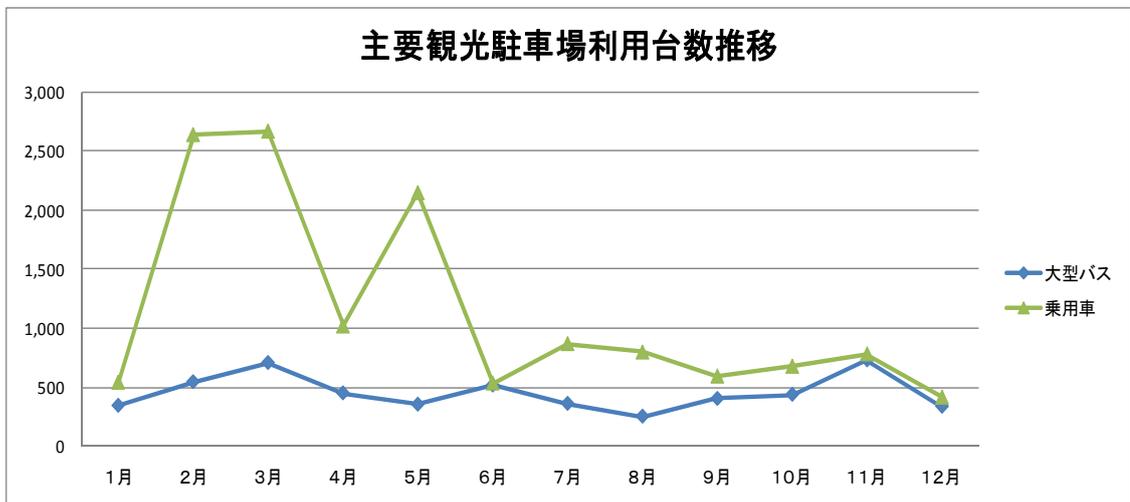
## (3) 乗用車

主要駐車場の駐車状況を見ると、約1万4千台であり、昨年比約1千3百台の増加である。

これは、FITと呼ばれる個人手配旅行が増えていることもあり、自由に移動ができる乗用車（レンタカー含む）の需要が増えていると考えられる。

乗用車を利用する観光入込み客の全体の割合は、50%と推計され割合は、若干増加傾向で推移している。

乗用車を利用する入込み客数は、57万6千人と推計される。

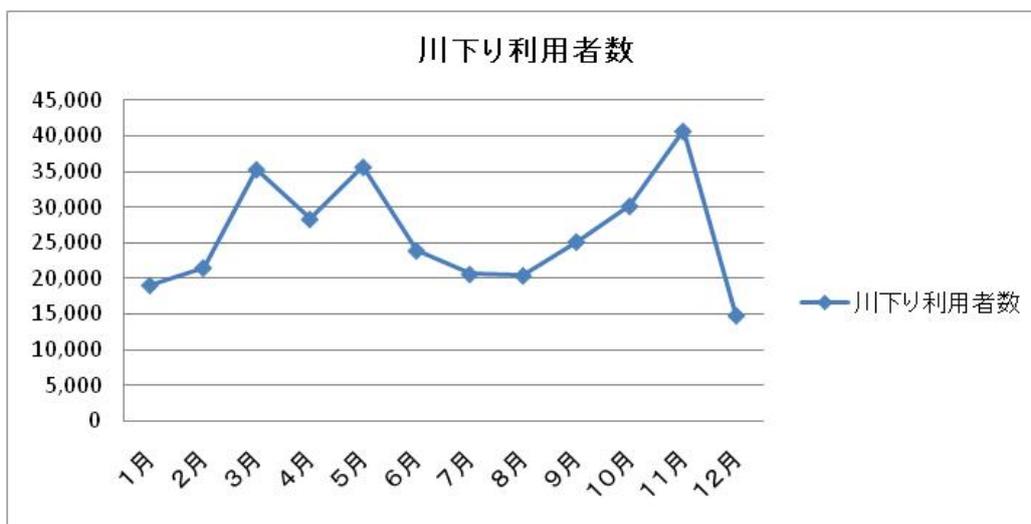


### 3. 観光施設利用者

個別の観光施設の利用者数を見ると資料館では減少傾向にあり、御花と北原白秋生家は大幅な減少となっている状況である。そのような中、川下り利用者数は315,702人で前年と比較してほぼ横ばいの状況である。

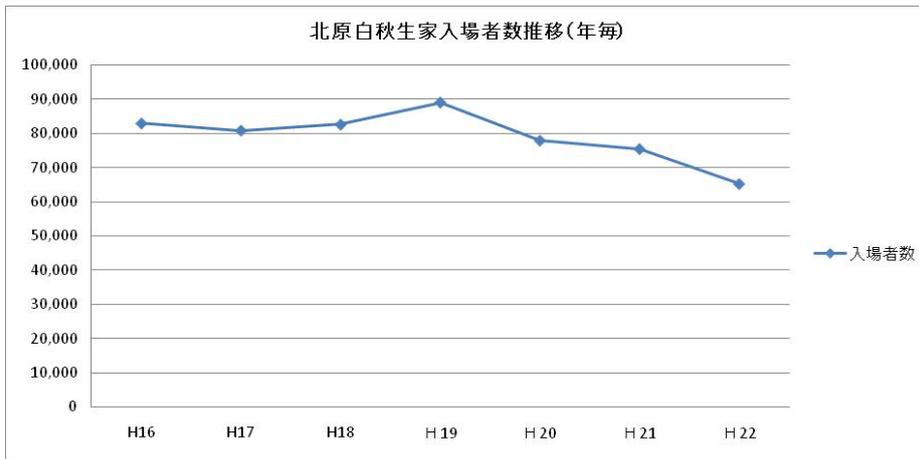
#### (1) 川下り

川下り利用者については、約31万6千人で、昨年と比べるとほぼ横ばいで推移している。月別にみると、11月がピークで約4万1千人となっており、次いで3月・5月が約3万5千人の利用となっている。逆に12月は寒い時期であり約1万5千人と年間通して一番少ない月となっている。



#### (2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入込客は、約6万5千人であり、前年比約1万人減少した。平成4年の約23万人をピークに毎年減少し、平成18年・19年と若干増加に転じたが、20年以降はまた減少傾向である。



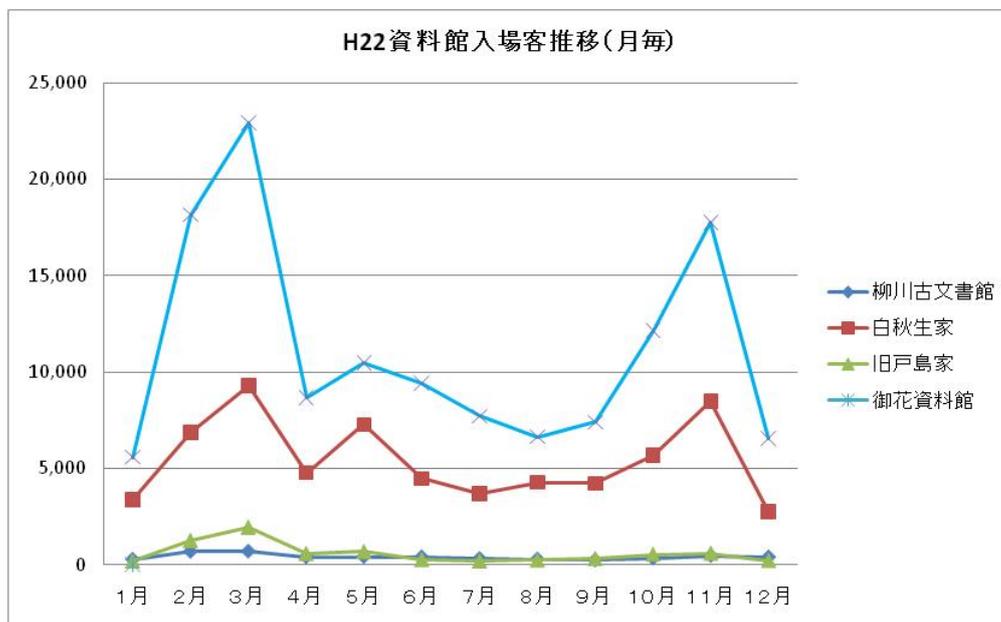
### (3) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅の入込客は、7千人で前年比約2千3百人の減少となっている。

北原白秋生家へ来館された方は、無料で入場できるシステムがあるが、全体の約40%にあたる約2千7百人の方が両施設を訪れている。

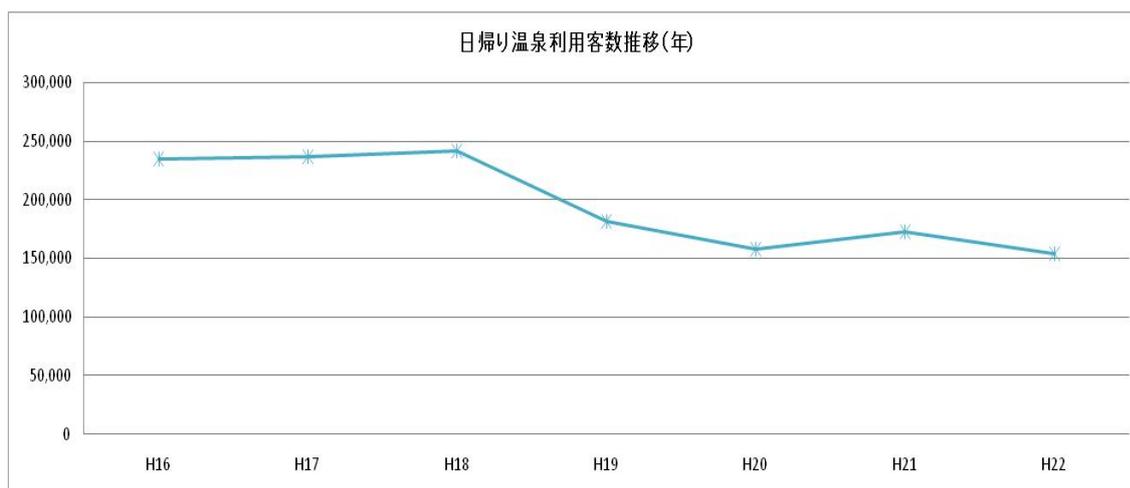
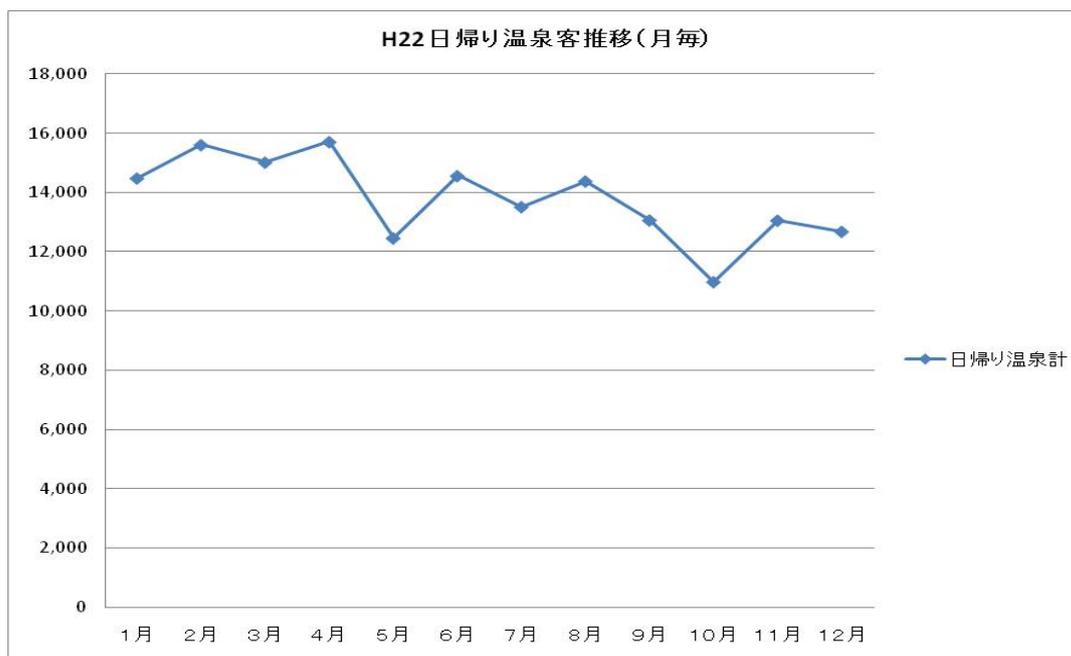
### (4) 御花

御花史料館の入場者数は、約13万4千人で前年比約2万8千人の減少となっている。



## (5) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約16万6千人であり、前年比約2万人の減となっている。

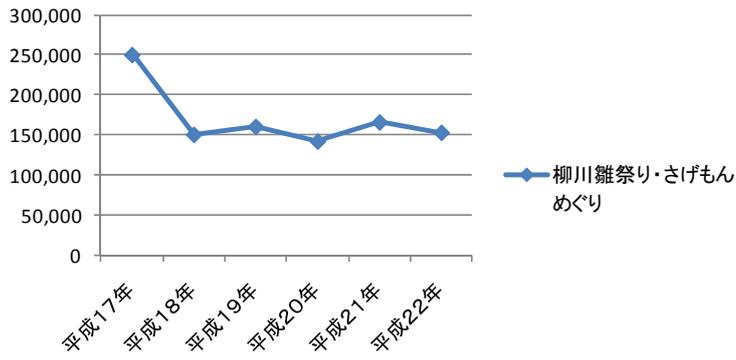


## 4. 主なもの・季節的なもの

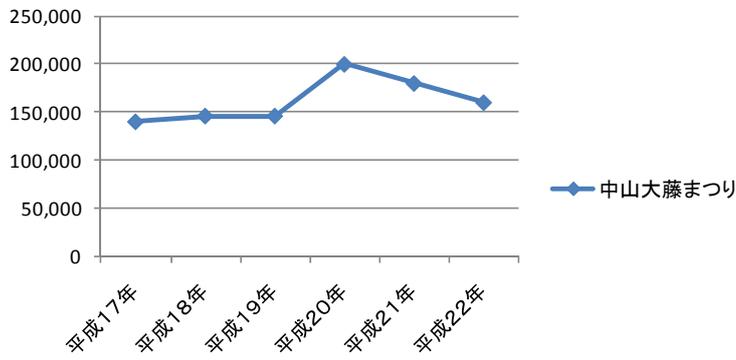
春に開催する「柳川雛祭り・さげもんめぐり」も定着し、毎年多くの観光客が訪れているが、九州各地同じような取り組みが展開されており、ここ数年は、横ばい状態にある。柳川の独自性を打ち出した催しが求められている。

他には花のイベントが充実してきているが、しょうぶ園を除き、花の開園場所が、観光中心部や駅より遠く、公共交通機関がなく、花の開園場所への交通手段が、タクシーか自家用車のみとなる。(ただし、中山大藤祭り会場には平成23年3月12日の九州新幹線全線開通と同時に筑後船小屋駅から西鉄柳川駅まで路線バスを運行している。)気軽に立ち寄る事のできる観光地として、市内の移動手段を充実させ、観光客に不便さを与えないような二次交通の対策が必要である。

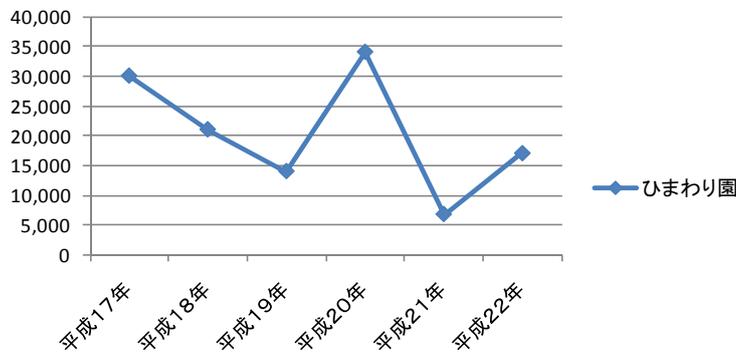
### 柳川雛祭り・さげもんめぐり



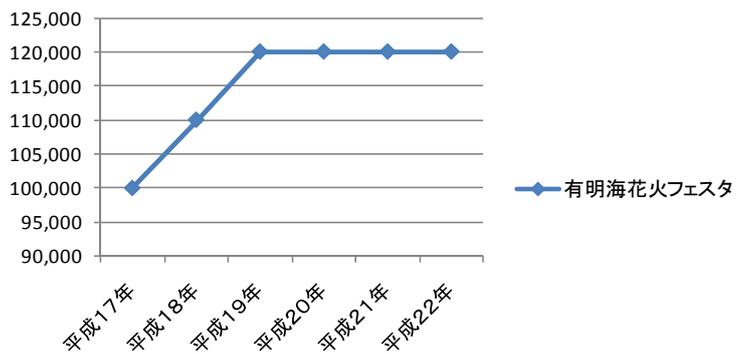
### 中山大藤まつり

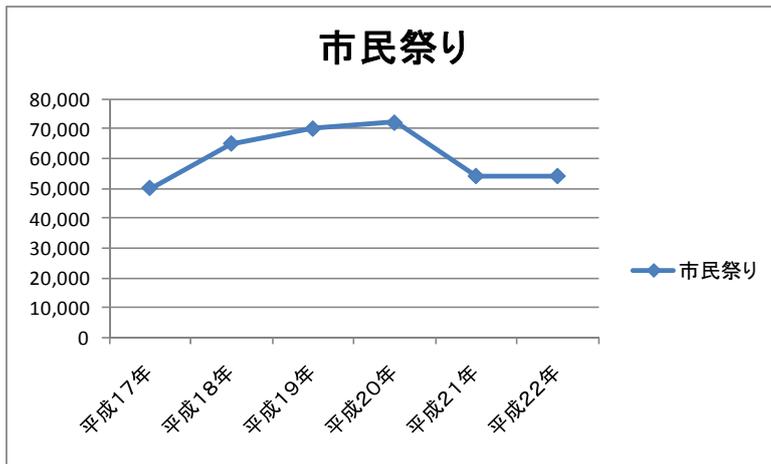


### ひまわり園



### 有明海花火フェスタ



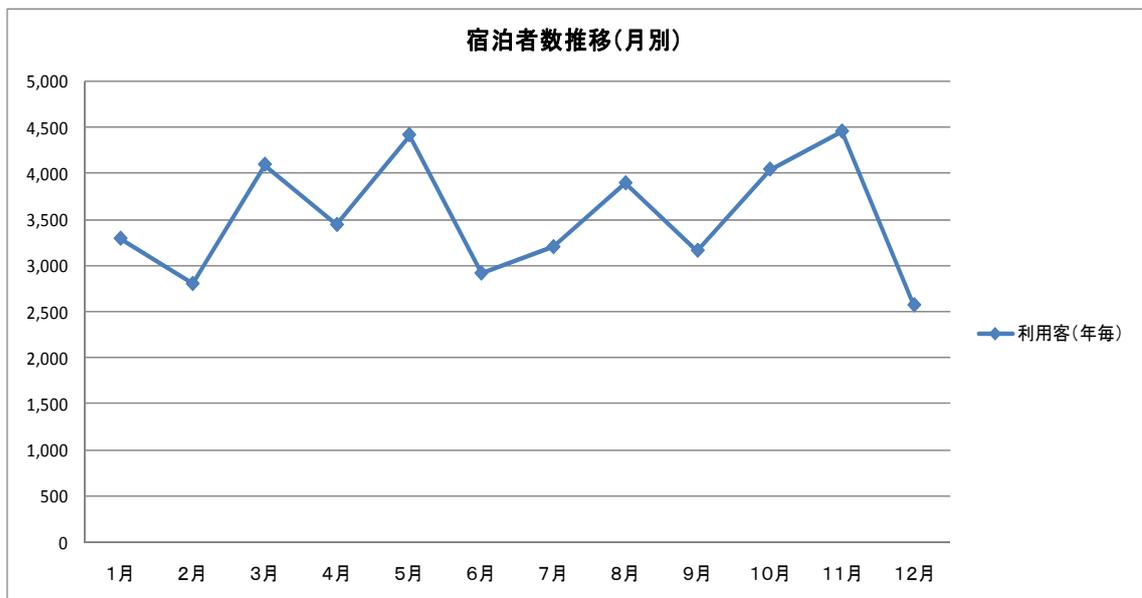


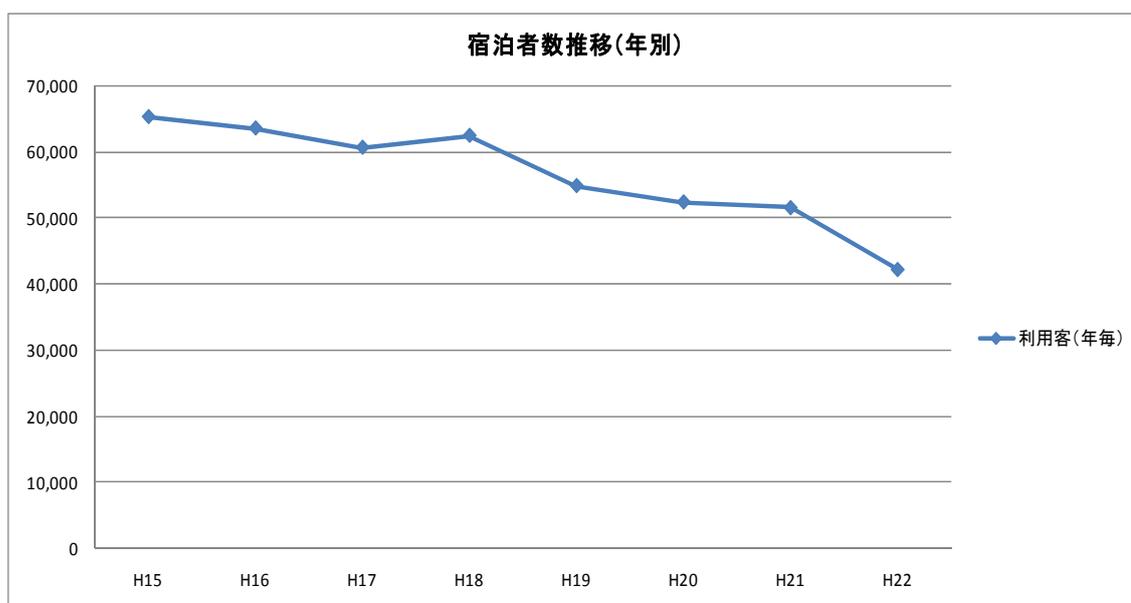
## 5. 宿泊客数

宿泊客は、42,239人であり、前年比約9千人の減である。直接の要因とは言えないが、市内の宿泊施設の内1施設が平成21年で廃業となった。

九州内での宿泊を伴う旅行も減少傾向にあり、全国の宿泊者数の1割しか九州には宿泊していないのが現状である。

宿泊施設によっては、大半をビジネス客が占めるところも多く（聞き取りによる）、来柳する観光客で宿泊を伴う者は、さらに少数であると考えられる。ビジネス客を含める宿泊客は、入込み客推計の約3.7%である。9の宿泊施設のうち天然温泉保有の施設は、2施設と少なく、宿泊地に温泉を望む観光客の要望に応じられない実態もあるのではないかと考えられる。また、個人型の旅行が多くなったことから、乗用車移動が多く、道路網の整備により日帰り圏内の範囲が拡大したことも要因の一つと考えられる。





## 6. 外国人観光客

外国人観光客は約2万人であり、前年より1万人は増加している。国別に見るとアジアからの入込が多く、特に、韓国・台湾からの来柳が大半である。中国でも昨年より観光ビザが比較的取りやすくなったことで中国からの入込も期待されたがごく少数であった。今後は、昨年5月に中国浙江省余姚市と観光文化交流都市の締結を行ったことをきっかけに中国に柳川をPRしていくことで中国人観光客の誘致を図っていく。

## 7. 年間推計消費額

平成22年柳川市における年間推計消費額を推計した結果、消費額は、約47億円と見られる。

観光客1人当たりの消費額は約4千円となっている。近年、消費を伴わない旅行が増加しているといわれているが本市でも例外ではなく、入場料等がかからないまち歩きや花めぐりなどに人が流れている状況である。

福岡県内における消費額の柳川の状況は、福岡県国際経済観光課調べにおいて、平成21年で6番目の位置にあるが、観光客1人当たりの消費額だけを見ると福岡市、久留米市に次いで3番目の位置にある。